

# 倉吉市公立保育所のあり方について (提 言)

平成25年1月8日

倉吉市公立保育所のあり方検討委員会

# 目 次

1	はじめに	1
2	倉吉市の公立保育所の現状と課題	1
	(1) 入所児童数の減少による小規模化	1
	(2) 老朽化し、ニーズに合わなくなった施設	1
	(3) 保育士不足と臨時職員等の増加	2
3	今後の就学前児童数及び保育必要児童数の推計	2
4	再編の基本的な考え方	3
	(1) 保育所の適正規模化	3
	(2) ニーズに合わせた施設環境の整備	4
	(3) 保育職員の適正配置	4
5	再編案と再編により想定される課題への対応	4
	(1) 再編対象となる保育所	4
	(2) 再編への道筋	5
	(3) 今後の施設・設備の整備	5
	(4) 再編により想定される課題への対応	5
6	おわりに	6

## 《資料編》

倉吉市認可保育所・保育サービス一覧	1
平成24年度保育所入所状況	2
保育所定員推移表	3
保育所入所児童数推移表	4
幼稚園入園児童数推移表・幼稚園定員数推移表	5
年度別出生数推移表・年度別出生数推計表・年度別就学前児童数推計表	6
地区別0歳児数推移表・年齢別入所児童数	7
地区別・年次別人口の推移・地区別就学前児童数の推移	8
再編対象保育所に係る年度別、年齢別入所児童数の推移	9
公立保育所建物の状況	10
倉吉市公立保育所における年齢別適正規模に関する考察結果	11
先行研究における1クラス当たりの保育適正人数	14
(～保育の質の評価に関する研究～「保育科学研究」第1巻(2010年度)より抜粋)	
児童福祉施設の設備及び運営に関する基準(抜粋)	17
鳥取県児童福祉施設に関する条例より「保育所の設備及び運営の基準」(抜粋)	18
保育所・認定こども園位置図	19
倉吉市公立保育所のあり方検討委員会設置要綱・委員名簿・検討タイムスケジュール	20

## 1 はじめに

保育所は、仕事と子育ての両立等を支援するために設置されています。養護と教育を一体的に行うことを特性とし、環境を通して子どもの保育を総合的に実施する役割を担うとともに、保護者や地域の子育て家庭に対する支援を行うこととされています。

乳幼児期は、子どもが生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて重要な時期です。少子化が進み、家庭や地域の子育て力の低下が指摘される中で、保育所における質の高い養護と教育の機能が強く求められています。

本市においても、少子化や核家族化の進行、多様な就労状況等に伴い、保育所に対するニーズは増大し、入所児童の成長発達を支援するとともに、延長保育をはじめとする多様なニーズに応える保育が実施されています。また、保育所の入所児童や保護者への支援のみならず、各保育所や子育て支援センター等において、保育の機能を活用し、地域の子育て家庭への支援が行われています。

しかし、一方で、少子化の進行等により、市内の多くの保育所では建設当時の定員を引き下げて運営しています。また、国において幼稚園と保育所の機能を併せ持つ幼保一体化への動きが進む中で、本年4月には、市内の幼稚園がすべて認定こども園化され、市街地を中心に幼保一体化による低年齢からの保育を担う体制が整備され、保育所を取り巻く状況が変化してきています。

このような状況の下、本委員会では、公立と民間の保育所が互いに切磋琢磨し質の高い保育を実施していくために、就学前児童数の推計や公立保育所の状況、民間保育所の設置状況等を考慮し、子どもにとってより良い保育環境となることを目指して、公立保育所の望ましい姿と再編案について検討してきました。

## 2 倉吉市の公立保育所の現状と課題

### (1) 入所児童数の減少による小規模化

人口集積地域等の公立保育所では、定員を超過した入所児童数がある一方で、少子化の進行等により、中山間地を中心に入所児童数が30人を下回る保育所が複数出てきており、定員の見直しの検討が必要です。また、小規模化により子どもの中で社会性や人間関係を育んでいく大切な経験が幼児期において十分にできない状況が危惧されます。

### (2) 老朽化し、ニーズに合わなくなった施設

① 現在の公立保育所は、昭和50年から昭和63年にかけて建設されており、築30年以上経過している園がほとんどであり、大規模修繕等を行って使用していますが、今後建て替え等の検討が必要となってきます。

② 公立保育所の保育室は3歳未満児を1室での対応としていますが、近年、入所児童の低年齢化により3歳未満児が増加し、年齢ごとの保育室が必要となる等、保育室の狭小さに苦慮する園が多くなっています。また、昭和51年以降に建てられた保育所はオープン形式をとり保育室に壁がない園が多く、他クラスの声で互いの保育に支障が出る等、保育を工夫して実施している状況にあります。

### (3) 保育士不足と臨時職員等の増加

近年の入所児童の低年齢化、長時間の保育、特別に支援の必要な児童等への加配保育士の配置等様々な保育ニーズに伴い、多くの保育士が必要となっています。

これに対し、臨時保育士を雇用して対応していますが、年々フルタイムの保育士の確保が難しくなっており、募集人数に満たない状況となっています。そのため、多くのパート保育士を雇用してしのいでいる状況です。

特に、0歳児を中心とする中途入所に対する保育士の確保は困難を極めており、人的環境が非常に厳しい状況にあります。

(平成24年4月1日現在の臨時・パートの保育士の占める割合は66%)

### 3 今後の就学前児童数及び保育必要児童数の推計

#### 【保育所・幼稚園入所児童数の推計】(倉吉市全体)

(H24年度以降の中途入所者数・広域入所者数は見込数) (単位:人)

	未就学 児童数(A)	保育所 入所者数 (B)	幼稚園 入所者数 (C)	入所者数 合計(D) (B+C)	入所率(1) (D/A)	中途入所者 数(見込) (E)	入所者数 合計(F) (D+E)	入所率(2) (F/A)	広域入 所者数 (G)	私立保育 所定員 (H) (建設・新 改築時の 定員)(I)	幼稚園 入所者数 (J)	公立保育所 入所必要数 上段 (F+G-H-J) (下段) (F+G-I-J)
H24.4.1	2,493	1,602	272	1,874	75.2%	180	2,054	82.4%	140	1,104 (1,340)	272	818 (582)
H25.4.1	2,477	1,592	280	1,873	75.6%	180	2,053	82.9%	140	1,104 (1,340)	280	808 (572)
H26.4.1	2,458	1,588	280	1,868	76.0%	180	2,048	83.3%	140	1,104 (1,340)	280	804 (568)
H27.4.1	2,436	1,581	280	1,861	76.4%	180	2,041	83.8%	140	1,104 (1,340)	280	797 (561)
H28.4.1	2,441	1,595	280	1,875	76.8%	180	2,055	84.2%	140	1,104 (1,340)	280	811 (575)
H29.4.1	2,446	1,608	280	1,888	77.2%	180	2,068	84.6%	140	1,104 (1,340)	280	824 (588)
H30.4.1	2,392	1,576	280	1,856	77.6%	180	2,036	85.1%	140	1,104 (1,340)	280	792 (556)
H31.4.1	2,332	1,539	280	1,819	78.0%	180	1,999	85.7%	140	1,104 (1,340)	280	755 (519)
H32.4.1	2,280	1,508	280	1,788	78.4%	180	1,968	86.3%	140	1,104 (1,340)	280	724 (488)

※上記表中、保育所入所者数(B)には、市外の保育所への入所者数を含む。

※上記表中、幼稚園入所者数(C)は5月1日現在の数値

※上記表中、中途入所者数(見込)(E)には幼稚園は含まない。

※平成24年度入所状況

私立保育所: 定員 1,104人  
 入所者数 1,100人(市内965人、市外135人)(平成24年4月1日現在)  
 " 1,242人(市内1092人、市外150人)(平成24年10月1日現在)

幼稚園: 定員 410人  
 入所者数 272人(平成24年5月1日現在)

- ・倉吉市の就学前児童数は、平成24年の2,493人から平成32年には2,280人程度になると見込まれます。(4月1日現在)
- ・この内、保育を必要とする児童数は、平成24年度末の2,054人から平成32年度末には1,968人程度になると見込まれます。(公私立保育所、認定こども園を含む)
- ・これに対し、公立保育所の受入必要児童数は、平成24年度末の818人から平成32年度末には724人程度(私立保育所の施設基準上の受入可能児童数の上限まで受入れた場合、平成24年度末の582人から平成32年度末には488人程度)になると見込まれます。

## 4 再編の基本的な考え方

### (基本的な視点)

- ・公立保育所の再編計画を考える上で、幼児期の子どもの健やかな成長・発達を促すためにより良い保育環境を整備することを基本として、保護者にとって通園しやすい距離や地域性のバランス等を考慮しました。
- ・特に、3歳以上にあっては、同年齢の子ども集団について考慮しました。
- ・再編案作成にあたり、平成32年度までの就学前児童数の見込みをもとに、以下の3点を具体的な留意点として検討しました。
  - ① 就学前児童数の減少に伴う公立保育所の小規模化への対応
  - ② 老朽化し、時代のニーズに合わなくなった施設環境への対応
  - ③ 入所児童の低年齢化等による保育士不足と臨時職員等の増加への対応

### (1) 保育所の適正規模化

- ・幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期ですが、近年の少子化の進行等により、地域において集団で遊ぶ姿がほとんど見られなくなり、子ども同士の関係の中で育つ社会性や人間関係の育ちが危惧される状況になっています。
- ・特に幼児期の後期では、集団の中で遊びを通して、社会生活を営む上で大切な自主と協調の姿勢や態度を身に付けていきますが、こうした姿勢や態度が生涯にわたる人との関わりや生活の基礎となっていきます。そのため、保育所等における子ども同士や保育職員との関わりが子どもの成長にとって大切な機会となっています。
- ・そこで、市内の全ての公立保育所で、3歳から5歳の各年齢ごとに、社会性や人間関係づくりに視点をあて、適正規模について検討しました。これは、1人の保育士で十分に子どもに向き合うことができ、遊びの楽しさを通して年齢に応じた子どもや集団の力を引き出すことを目的として、保育の実践を行う中で構成人数による効果と課題を出しあい、年齢ごとの望ましい人数について考察したものです。
- ・本委員会では、この考察結果と合わせ、研究者や各種団体による先行データを参考に、年齢別クラスの望ましい人数及び1園当りの定員規模の目安として、次のとおりとしました。

#### ○年齢別クラスの児童数

3歳児：10～15人程度、4歳児：18～20人程度、5歳児：20～23人程度を目安とする。

#### ○1園当りの定員

概ね70人から90人を目安とする。

これは、上記の3歳児から5歳児までの各年齢別クラスの児童数の少数と多数の合計人数に、3歳未満児を一定数見込んだ上で、算出したもの。

## (2) ニーズに合わせた施設環境の整備

保育施設を再編することにより、施設の集約を図りながら、市の財政状況を考慮し、限られた財政的資源の適切な配分により、計画的な整備を推進していく必要があります。特に、低年齢児の増加に対応した保育室の確保等、児童にとって適切な環境の整備が急がれるところです。

## (3) 保育職員の適正配置

- ・保育の現場においては、入所児童の低年齢化等に伴い保育士の必要数が増す中で、多くの臨時職員等で補っており、さらに年々その確保が難しくなっている現状にあります。
- ・この現状を改善していくため、再編により子どもの集団規模を確保することにより、年齢別クラス担任への正規職員の配置等、職員の適正配置と保育士の増員ニーズへの対応がし易くなると考えられます。
- ・また、保育士の確保に加え、保育ニーズに適切に対応できる保育職員の質の確保が求められており、今後においても、研修の充実と、保育職員自身の研鑽を期待するところです。

## 5 再編案と再編により想定される課題への対応

### 〔再編案〕

現在 1 1 園ある公立保育所を 7 園に再編する。

再編対象となる保育所は、次のことを考慮し検討しました。

- ① 現在既に入所児童数が少なく、今後においても大幅に増加することが考えにくい
- ② 近隣地域に私立保育所等の受入れ施設が存在している

### (1) 再編対象となる保育所

(閉園対象とする保育所)

倉吉西⇒	H20～H24 の平均入所児童数(4月1日現在)	40 人
		(近隣地域に私立保育所、認定こども園有り)
灘手⇒	〃	27 人
		(入所児童数の減少)
北谷⇒	〃	29 人
		( 〃 )
山守⇒	〃	20 人
		( 〃 )

## 【再編対象地区別就学前児童数および保育所入所児童数の推計】

(※H22～H24までは確定数)

各年4月1日現在 (単位:人)

地区名	年度 区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
		明倫	就学前児童数	134	119	112	123	119	115	111	107	104	101
	保育所入所見込数	61	67	68	66	63	61	59	57	55	54	52	50
	倉吉西保育園入所見込数	14	21	23	24	19	19	18	17	17	16	16	15
灘手	就学前児童数	35	40	34	30	29	28	27	26	25	24	23	22
	保育所入所見込数	28	29	28	24	22	21	21	20	19	18	18	17
	灘手保育園入所見込数	23	24	24	21	19	18	17	17	16	15	15	14
北谷	就学前児童数	52	51	55	58	57	56	55	54	53	52	51	50
	保育所入所見込数	36	38	39	38	39	39	38	37	37	36	35	34
	北谷保育園入所見込数	25	26	28	26	27	27	26	26	25	25	24	24
関金 (上段:就学前児童数欄の上段は地区全体、下段は山守地区)	就学前児童数	157 (29)	147 (27)	137 (29)	126 (27)	121 (26)	116 (25)	111 (24)	107 (23)	103 (22)	99 (21)	95 (20)	91 (19)
	保育所入所見込数	122	112	111	108	96	92	88	85	82	79	75	72
	山守保育園入所見込数	22	17	18	23	18	17	17	16	15	14	14	13

※この表のH25以降の未就学児童数は、H24年度の確定数に下表(年度別未就学児童数推計表)のH17～H24の地区別増減率(見込)を乗じて得た数値

※この表のH25以降の保育所入所見込数は、各年の地区別未就学児童数にH21～H24の地区別保育所平均入所率を乗じて得た数値

※この表のH25以降の各保育所別入所見込数は、各年の地区別未就学児童数にH21～H24の各保育所の平均入所率を乗じて得た数値

※この表の関金地区の未就学児童数の欄中「山守地区」の数値は、各年の3月末現在の0～5歳児の児童数

※この表の中には外国人は含まれていない。

### (2) 再編への道筋

閉園対象とする保育所については、市として7園の配置計画を作成したのち、転園の準備等が整い次第、順次閉園します。

なお、将来的にさらなる入所児童数の減少等公立保育所を取り巻く状況が大きく変化した場合は、あらためて適切な再編に向けての検討が必要になると考えられます。

### (3) 今後の施設・設備の整備

再編後の保育施設については、子どもにとってより良い環境となるよう必要な施設・設備について検討するとともに、老朽化及び耐震性の状況、さらに地域性や市の財政状況等を考慮し、限られた財政的資源の適切な配分により、計画的な施設・設備の整備を図っていく必要があります。

### (4) 再編により想定される課題への対応

#### ① 保育所の遠距離化

再編に伴い保育所までの距離が長くなることから、家庭の状況等によっては送迎が困難となる場合も考えられ、状況をみながら、3歳以上児を対象とした通園バスの運行等の対応策も検討する必要があります。

## ② 閉園する地域との連携

施設の整備計画において、改築・新築時には地域性等を十分考慮し施設の整備を行うことが必要です。再編により地域との繋がりが希薄化する懸念もあることから、特に閉園する保育所の区域にあつては、今まで培われてきた地域との関係を尊重することが大切です。

そのためには、再編後の保育内容の中に、地域の伝統・文化や特性を活かした取り組みを入れる等、地域の子育てに関わる団体や個人、地区公民館や自治公民館等のコミュニティ組織との連携を図っていくことが、重要となってきます。

## 6 おわりに

私たちは、子どもの笑顔や歓声から元気や活力をもらい、子育てや子どもに関わることで喜んだり、学んだり、癒されたりしていますが、まさに子どもは、親はもとより地域や社会の宝でもあります。

本委員会は、本年7月に市より委嘱を受け、12月までの6か月間に計6回の委員会を開催し、保育の適正規模及び再編案等、本市の公立保育所の今後のあり方について検討してきました。

検討にあたり、まずは、次代を担う子どもの成長への配慮を第一とし、限りある資源を有効に活用し、子どもたちにとってより良い保育環境を整備されることを願い、この提言をまとめました。

倉吉市におかれましては、市がまちづくりの基本目標の一つとして掲げる「子どもを産み育てやすいまち」を実現していくため、次代を担うすべての子どもたちが等しく豊かな乳幼児期を過ごせるよう支援を充実されるとともに、安心して子育てできる環境の整備に今後も尽力されることを期待するところです。

本委員会としては、この提言をその具体的な指針の一つとして活かしていただき、今後の公立保育所のあり方について方向性を見出していかれることを切に願うものです。